

Q&A

今回のFJのクラスルール改正により、メインセールのトップバテンがフルバテンになりました。そして、次のような質問が寄せられました。質問された方にはFJ協会からご返事は差し上げておりますが、同じような疑問を持たれた方もあるかもしれません。WebMasterとして、この問題を調べましたので、Q&A形式で掲載します。[03/04/01]

質問

素朴な疑問があります。教えていただければありがたいのですが...

まず1つ目は、なぜ、今回のルール改正が必要であったのか？

2つ目は、そのルール改正により艇の性能はどのように変化するのか？

よろしくお願いします。

回答

日本のチーフメジャーであり、また、IFJOのカウンセラーでもあった角田慧氏が昨年8月に急逝されましたので、この件について十分な説明のできる人がいなくなりましたが、編集者が過去の資料を調べて分かった範囲でお答えします。

実は、この問題は16年前と今回と2度に亘って提起され、前回は否決、今回は実現、という結果になっています。

16年前の1987年7月、日本の境港で世界選手権大会が開催された時、当時のIFJO会長の故ギュルヒャー氏の唱導で、内外の選手たちの意見を聞くヒアリングが設けられました。「クラスルールで変更したい点があったら提案してほしい。但し、費用が高価でないこと。改造が簡単なことを原則とする」との前置きでした。このヒアリングの席上で、ロングバテンの要望が出されている。「FDや420、470のように、トップバテンを長くしたい」。他に「センターボードを大きくしたい」「ジブのクリューのアイを2個にしたい」「スピナーカー・ポールを長くしたい」「スピナーカーを大きくしたい」など、更に専門的な提案もいくつか記録されている。

これらの要望は、翌月に行われたFJヨーロッパ・ツアー・選手権大会でのヒアリングでも紹介され、その後、ギュルヒャー氏から角田氏へ次の書簡が送られている。

「ヨーロッパでのヒアリングでも、選手たちは興味を示したが、先ず可能かどうか実験するのが先決とされた。フルバテンに関しては、セール買替えの必要が生じないことが前提条件である。更に問題点を追求すると次のことがある。リーチからマストまでの「全通バテン」が要望の趣旨と想定されるが、バテンの長さの問題が生じる。トップバテンのポケットをマストまで伸ばして済むなら簡単だが、それだけでは済まない。セール上部の面積がメーカーによって異なるので、トップバテンの長さの規定が必要になる。日本ではどれ位の長さを希望するか、また、メーカーによるセールの違

いはどれ位か」という内容である。バテン以外の諸提案についても、ギュルヒャー氏個人の意見が、それぞれ明確に述べられているが、ここでは省略する。

角田氏が国内のセールメーカーに問い合わせ、2社からの回答文が保存されている。それによると、両社とも歓迎の意向を述べている。「安定したセールの形状が得られ、トリミングが容易になる。セールが長持ちする」としている。長さは、A社は1250mm、B社は1120mmと答えている。また、B社はアッパーガース(3/4リーチの点)の規定がない点に触れている。規定が無いので面積を広く取ろうとするので相対的にトップバテンが短くなり、風の弱い時にはリーチが内側に折れ込むことが生じ、セールの寿命にも良くないと言っている。前述の書簡が言及している「上部面積のメーカーによる相違」の補足説明になっている。

しかし、1年経った1988年のヨーロッパ選手権大会の時に集まったドイツ、イタリア、オランダのカウンセラーの会議では、トップバテンも含め、どの提案にも否定的な感触であったので採用しないとの最終連絡があった。理由は2つ挙げられている。「第1の理由は、これらの改定をしても、FJにとってプラスなのかどうか明瞭でない。第2の理由は、クラスルールの変更で余分の支出を迫られるは、大多数の人の望むところではなかろう」という内容であった。この連絡は、技術部門担当のヴェーン氏から角田氏に送られている。これで15年前は決着した。

翌年の1989年には、「FJの父」であるコンラート・ギュルヒャー氏が逝去され、その後のIFJOでは役員の交代が続いた。以上が資料から調べた経過であり、輪郭はこれで掴めると思う。次は、今回の経過です。関係者から聞いた又聞きですが、必要なら関係者に説明をお願いしたい。

13年後の2001年、山形県温海町でFJワールドが開催された。その時(アメリカの選手がフルバテンのセールを持参したので、?)フルバテンへの関心が再び起こった。その後、前回と同様の実験や手続きを経て、今回はルールの変更となった。IFJOの役員の顔ぶれも新人に代わっていて、選手の要望に出来る限り応じる姿勢を取ったのではなかろうか。フルバテンになったというIFJOからの連絡を読んでも、性能にはあまり言及していないで、セールが長持ちするだろうとか、選手の声に応えたとか書いてある。また、今回の変更で最も重要な点はセールの寸法が変わったことであるとも言っている。

今回と16年前とを比較して注目されるのは、前回は、セールの面積には触れないで、トップバテンの長さだけを延長して規定することによって解決しようとした。今回は、長さの規定を断念し、3/4リーチの点の計測を取り入れることによって面積を規定することによって対応したことである。但し、計測点が増えたぶん、今回はセールの寸法に変化が生じた。

FD、420、470など他の人気艇種が既に採用しており、セールメーカーも推奨していて、マイナスの点も特には見えないし、時代の傾向もあると前向きに考え、日

本 FJ 協会は、移行措置を経て、今回の改定を実施することになっている。
性能的にはどうか、一応の実験はあるようだが、既に決定してしまっていることなので割愛する。今後展開されるレース自体が、大規模な追試の実験とも見なせるので、有志の研究を期待したい。また、これを契機として日本 FJ 協会のホームページを急遽立ち上げ、事前の広報活動の充実を図ることとなった。